

平成20年 4月25日
消 防 庁

「編み構造ロープ等を使用した救助技術について」の報告書の公表

近年、ロープ等を使用した救助技術をより安全・確実なものとし、その迅速性及び省力化等を図るため、編み構造ロープのうちカーンマントルタイプの救助ロープ及び同ロープに関連する資器材を取り入れている消防本部があります。こうした資器材の導入は、救助技術の高度化に資するものと考えられますが、一方、安易に導入、使用をした場合、予想もし得ない重大な事故が発生することも考えられます。

こうした状況を踏まえ、消防庁においては、平成19年度に「救助技術の高度化等検討会」（座長：蓼沼朗寿・全国過疎地域自立促進連盟専務理事）を設置し、「編み構造ロープ等を使用した救助技術について」の検討を行ったものです。この度、同検討会の報告書が完成しましたので、その報告内容を公表します。

今回の報告書では、「救助体系の特徴」、「カーンマントルロープを使用した救助体系における基本的事項」、「目的別活動要領」、「まとめ」の項目に大別して検討した結果と、「参考資料」として救助用ロープの試験結果、資器材の点検要領、資器材の基準や規格について取りまとめました。

報告書の概要については、[別紙](#)のとおりです。

※ [報告書本文](#)については、消防庁ホームページ

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList6_1.html掲載予定



<連絡先>

消防庁国民保護・防災部参事官室 坂野補佐 大久保係長

電話 03-5253-7507

FAX 03-5253-7576